

# 第63期報告書

平成19年4月1日～平成20年3月31日

## ホームページのご紹介

### ●TOPページ



IRページ  
最新のIR情報を提供しております。

製品情報ページ  
水処理装置や水処理薬品など得意とする取扱製品を掲載しております。

<http://www.organo.co.jp/>



# Ecologically Clean

## IRカレンダー (平成20年4月1日～平成21年3月31日)

- 決算説明会
- 招集通知発送
- 決議通知・報告書発送
- 中間決算説明会
- 中間報告書発送



### オルガノ株式会社

〒136-8631 東京都江東区新砂1-2-8 経営企画部 TEL.03-5635-5111  
ホームページアドレス <http://www.organo.co.jp/>



## オルガノ株式会社

企業コンセプト

# Ecologically Clean

企業理念

オルガノグループは  
かけがえのない地球の未来を見つめ  
“心”と“技”で水の価値を創造する

経営理念

- お客様にとって、最適な商品・技術・サービスを創造し、提供し続ける企業を目指す
- 株主様にとって、常に成長し、安定収益をあげる魅力的な企業を目指す
- 社員にとって、働き甲斐のあり、誇りの持てる企業を目指す

## 株主の皆様へ



代表取締役社長兼CEO  
**橋本喜代志**

株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のご支援を賜わり厚く御礼申し上げます。  
ここに当社の第63期事業年度(平成19年度)のご報告をさせていただきます。

### 1. 当連結会計年度の概況

当社グループは、過去最高益を達成した前期決算をベースに「成長への新たな挑戦」をスローガンに掲げ、積極的な予算を策定し取り組んでまいりました。一方、わが国経済は好調な新興国向けの輸出などを背景に、前半は緩やかな回復基調で推移いたしましたが、後半に入り、サブプライムローン問題に端を発する金融市場の混乱や、原油をはじめとする資源価格のさらなる高騰などの影響から、全般的に景気の減速傾向が明確になりました。

これらの要因により当社グループを取り巻く市場環境は、これまで活発だった民間企業の生産水準や設備投資の動向に陰りが見えつつあることに加え、当社の主要顧客である電子産業の大型設備投資が端境期となったことから、受注環境は非常に厳しい状況となりました。

こうした状況のもと、当社グループは地域・顧客に密着した営業体制の強化、従来のメンテナンスサービスに留まらないソリューション事業の拡大、コスト競争力の強化や新技術の開発を目指した技術・生産・開発の体制強化に取り組んでまいりましたが、厳しい受注環境を背景に、前期と比較して受注高、売上高とも大幅に減少し、受注高769億円(前期比10.3%減)、売上高735億円(同6.2%減)、経常利益38億円(同47.9%減)となりました。

そのような中で、新たに大規模水処理アウトソーシング業務の受託を開始できたこと、環境対策に重点をおいた新たな排水処理技術の実用化に目途をつけたことなど、将来の成長への布石を打つことができたと考えております。

なお、当期の期末配当金につきましては、当期の結果を踏まえながらも次期の見通しなどを勘案し、1株当たり6円とさせていただきます。これにより、当期の年間配当金は1株当たり12円となります。

### 2. 今後の経営方針

近年、先進諸国のみならずBRICsに代表される新興国の経済成長に伴い、地球規模での水資源や環境にまつわる諸問題が生じています。本年開催予定の洞爺湖サミットでも環境・気候変動がテーマとして取り上げられる予定であり、環境保全と経済発展をいかに両立させていくかが世界的に重要な課題となっております。

当社グループは、このような地球規模での環境の変化や、より純度の高い水を必要とする産業技術の進化など、大きく変化する事業・市場環境の中で、我々が培ってきた技術や製品の提供を通じて「存在感」を持ち続ける企業集団を目指してまいります。中期的な経営目標として連結売上高1,000億円、経常利益100億円を掲げ、「成長への新たな挑戦」をテーマに取り組みを進めております。

### 3. 次期の見通し

昨年の米国に端を発した金融不安や円高、世界的な資源・資材価格高騰など先行きの不透明感は一層増してきており、景気動向が調整局面に入ることが懸念されております。その一方で、グローバル展開を目指した積極的な設備投資や環境対策への投資も予想されており、当社グループはこれをビジネスチャンスととらえ積極的に取り組んでいきたいと考えております。

次期の業績につきましては、受注高860億円(当期比11.7%増)、売上高820億円(同11.4%増)、経常利益49億円(同26.5%増)を見込んでおります。

### 4. 最後に

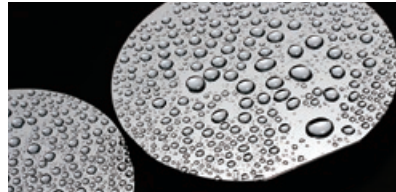
第64期(平成20年度)は、「成長に向けた再チャレンジの年」と位置付け、グループ社員一同不退転の覚悟で業績と企業価値の向上に努めてまいります。株主の皆様におかれましては、今後ともますますのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

平成20年6月

## ▶ プラント事業

### 電子産業分野

半導体や液晶、各種電子部品・材料の洗浄には超純水が用いられており、当社では超純水製造装置を日本のトップメーカーをはじめ海外メーカーへも納入しています。工場の大型化に合わせ、1時間あたり2,000m<sup>3</sup>という大流量への要求に応えると共に、環境へ配慮した排水を出さないクローズド化にも取り組んでいます。



### 一般産業分野

化学、石油精製、食品工業、紙・パルプや繊維・染色、自動車、メッキ工業など、あらゆる産業に対して目的に応じたプロセス用水を最も効率的に処理するシステムを提供しています。



### 電力分野

高い信頼性を求められる火力・原子力発電所向け水処理プラント。この分野で高いシェアを誇り、その技術力の高さを証明しています。米国原子力発電所向けに水処理装置を納入するなど国内のみならず海外市場にも取り組んでいます。



### 上下水道分野

私たちの生活に欠かせないライフラインである上水道・下水道。その処理を担う浄水場では沈でんろ過、膜ろ過、活性炭やオゾンによる高度処理など、下水処理場では生物処理などオルガノの得意な技術が活用されています。



### 医療薬品分野

安全性が特に重要視される医薬品製造プロセス。ここでもオルガノの高度な技術が活かされています。注射用水をつくる蒸留水製造設備や製薬設備を細菌から守る純粋蒸気発生器など、高純度でバイोजェン（発熱性物質）を含まない、高い安全性を有する水をつくるシステムを提供します。



## ▶ ソリューション事業

### メンテナンス

長年培ったノウハウをもとに、水処理装置に関する修理や部品交換、定期点検、保守点検などのメンテナンスを行います。

### 提案型サービス

既設水処理装置の設備診断とあわせて改善・改良提案を行います。また、薬品使用量や廃棄物を削減するなど環境負荷低減に貢献する提案を行います。

### 水処理アウトソーシング受託事業

#### ■ 包括メンテナンス

お客様の工場にある水処理装置の点検と消耗品交換などのメンテナンスをオルガノが一括受託することにより、安心して装置をお使いいただけます。



#### ■ 処理水供給

お客様の工場内にオルガノが水処理装置を設置し、使用量に応じた処理水を供給します。お客様のニーズも高まっており、大規模な水処理加工業務を受託しています。

#### ■ 遠隔監視

オルガノ本社内にある監視センターで、水処理装置の運転状況を遠隔監視し、警報通知を受け、早急な現場対応をバックアップします。装置の運転データから傾向変化を読み取り、予測監視により水処理プラントのトラブルを削減します。



#### ■ 運転管理

ノウハウを有した運転担当者を派遣し、状況に応じた適切な運転管理を行うことにより、お客様の負担を軽減し、安定かつ効率的な運転を実現します。

▶ 機能商品事業

標準製品

小型水処理装置は豊富なラインアップを有し、電子部品製造工場、食品工場、病院、研究所、レジャー施設まで広く用いられています。標準化による短納期・低コストの実現で、多くのお客様に好評いただいています。

〈純水装置 SDAシリーズ〉



水処理薬品

冷却水処理剤・ボイラ処理剤・排水処理剤など水処理用の多様な薬品をラインアップ。装置と組み合わせたトータルシステムを提案し、安定運転を実現します。



食品加工材

健康志向の高まりを受け、より食品の付加価値が求められています。当社ではお客様の商品価値を高める品質改良剤、食品素材を食品メーカーへ提供しています。なかでも、保水効果の高いリン酸塩は国内で高いシェアを有しています。



オルガノ・コアコンピタンス

イオン交換樹脂 アンバーライト

当社の基幹材として、多くのお客様にご使用いただいているイオン交換樹脂「アンバーライト」は、世界有数の化学会社、米国ローム・アンド・ハース社の製品です。イオン交換樹脂は、大きさ0.5mm~1.0mm位の球状のプラスチック。この樹脂に通水することによって水中の不純物イオンを除去し、きれいな水（純水）を得ることができます。その昔イオン交換樹脂は、天然産の無機ゼオライトに対して有機ゼオライト（オルガニックゼオライト）、略名「オルガノライト」と呼ばれており、これが当社の社名「オルガノ」に由来しています。



開発センターの集約完了

純水・超純水製造技術、浄水処理・排水処理技術、環境浄化・環境負荷低減技術、高度分離・精製技術、分析・解析モニタリング技術など水に関する多岐にわたる研究開発を神奈川県相模原市と埼玉県戸田市の2元体制で行ってきましたが、シナジー効果を高めるため、本年6月相模原市1箇所に集約しました。また集約に合わせ、超純水分析を行うクリーンルームを備えた研究棟とパイロットプラントによる実証実験が可能な大型実験棟の増設を完了しました。人材の集約、開発インフラの強化など研究体制の拡充によって、最先端技術、独自商品の開発を更に推し進めます。



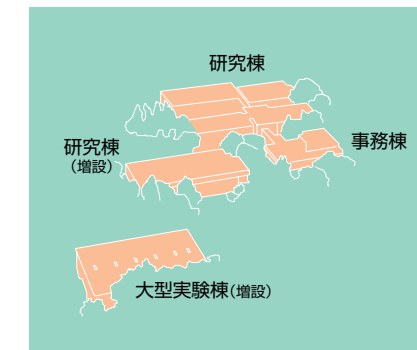
実証実験風景

開発センター概要



開発センター全景

所在地：〒229-0012  
神奈川県相模原市西大沼4丁目4番1号  
敷地面積：約105,000平方メートル  
床面積：従来 約11,000平方メートル  
増設 約4,300平方メートル  
合計 約15,300平方メートル



## いわき工場の増設開始

いわき工場は、最新鋭の水処理装置製造工場として、大型水処理プラントを構成する装置ユニットを製造していますが、水処理装置の生産能力増強に向け、本年2月より新棟を建設中です。

新棟建設によって、主力製品である大型水処理装置の生産キャパシティを約2倍へ増強します。また、標準型超純水ユニットMPUシリーズなどのユニット組立室を確保し、資材在庫、製品在庫を持つことにより装置の更なる短納期化を推進し、お客様のニーズに合わせた納期の実現に努めます。新棟での生産開始は本年11月を予定しています。



### いわき工場概要

所在地：〒970-1144

福島県いわき市好間工業団地1番66

敷地面積：約82,600平方メートル

床面積：工事棟（既設）約7,700平方メートル  
（増設）約9,200平方メートル

管理棟（既設）約2,000平方メートル



いわき工場新棟建設風景

## 「大容量膜ろ過技術」日刊工業新聞社賞受賞

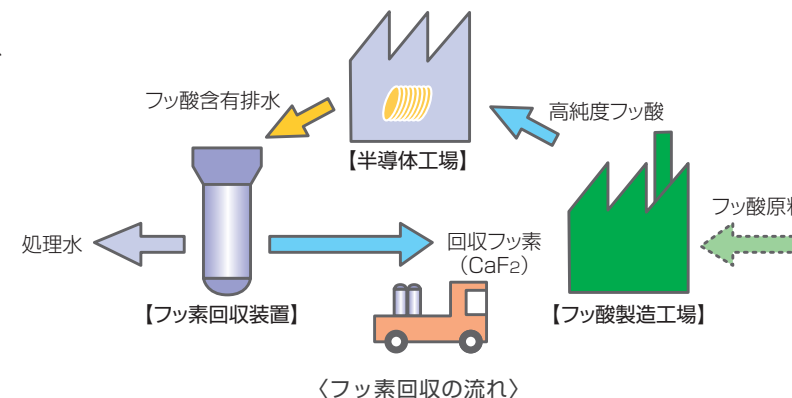
日本工業用水協会研究発表会において、日刊工業新聞社は、毎年水処理分野の優れた技術に対して、日刊工業新聞社賞を授与しています。過去オルガノは、連続純水製造装置、活性炭技術、長繊維ろ過装置（FIBAX）で3回受賞し、今回「浄水向け大容量膜ろ過技術の実用化」で4回目の受賞となりました。オルガノでは浄水場向けの膜ろ過設備を平成8年の1号機納入以来、約10年間で50件以上納入するなど、当分野のパイオニアとしての地位を確立しています。



表彰式での受賞風景

## 新型フッ素回収システムの開発

フッ酸は主に半導体工場でウエハ洗浄に用いられ、一般的な排水処理装置では、排水中のフッ素は産業廃棄物である汚泥として処分されていることから、リサイクルが強く求められていました。フッ素回収装置は、工場から排出されるフッ酸排水のフッ素を高純度蛍石と同等のフッ化カルシウムとして回収します。新型装置は、従来型では難しかった高濃度フッ酸排水からもフッ素回収を可能とし、回収率95%以上を実現しました。本年4月に1号機を納入するなど、高効率なフッ素回収ニーズに応え、限られた資源を有効利用する技術で環境負荷低減に貢献します。



〈フッ素回収の流れ〉

## 米国発電所向け復水処理システム納入

原子力発電所向け復水処理システムの当社の主力製品のひとつである中空糸膜式復水ろ過装置が米国発電所に納入され、昨年11月より運転が開始されています。復水処理システムとは、発電プラント内で循環している水の中の不純物を取り除き高純度に保つ仕組みです。中空糸膜を用いたシステムが日本国外の発電所に導入されたのは同業他社を含めて初めてであり、米国でも新たな復水ろ過技術として注目を集めています。



復水ろ過装置設置風景（国内例）

連結貸借対照表(要旨)

(単位: 百万円)

科目	当期 (平成20年3月31日現在)	前期 (平成19年3月31日現在)	比較増減
<b>資産の部</b>			
流動資産	48,031	59,497	△ 11,466
固定資産	29,675	28,209	1,466
有形固定資産	25,746	22,473	3,273
無形固定資産	554	553	1
投資その他の資産	3,374	5,182	△ 1,807
<b>資産合計</b>	<b>77,707</b>	<b>87,706</b>	<b>△ 9,999</b>
<b>負債の部</b>			
流動負債	32,531	41,162	△ 8,630
固定負債	5,902	8,555	△ 2,652
<b>負債合計</b>	<b>38,434</b>	<b>49,717</b>	<b>△ 11,283</b>
<b>純資産の部</b>			
株主資本	38,573	37,066	1,506
資本金	8,225	8,225	-
資本剰余金	7,508	7,509	△ 0
利益剰余金	23,129	21,477	1,651
自己株式	△ 290	△ 145	△ 145
評価・換算差額等	267	566	△ 298
少数株主持分	432	356	75
<b>純資産合計</b>	<b>39,272</b>	<b>37,989</b>	<b>1,283</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>77,707</b>	<b>87,706</b>	<b>△ 9,999</b>

◆**流動資産**  
売掛債権及び仕掛品を中心としたたな卸資産の減少などにより11,466百万円減少しました。

◆**有形固定資産**  
電子産業向けの水処理アウトソーシング受託事業の事業用設備建設や、開発センターの増設などにより3,273百万円増加しました。

◆**投資その他の資産**  
その他有価証券の売却などにより1,807百万円減少しました。

◆**流動負債**  
仕入債務、前受金及び未払法人税等の減少などにより8,630百万円減少しました。

◆**固定負債**  
返済による長期借入金及び制度移行による退職給付引当金の減少などにより2,652百万円減少しました。

◆**純資産の部**  
当期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加などにより純資産は39,272百万円となり、前期より1,283百万円増加しました。

連結損益計算書(要旨)

(単位: 百万円)

科目	当期 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	前期 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)	比較増減
売上高	73,592	78,467	△ 4,874
売上原価	55,490	56,789	△ 1,299
売上総利益	18,102	21,677	△ 3,575
販売費及び一般管理費	14,186	14,154	31
<b>営業利益</b>	<b>3,915</b>	<b>7,522</b>	<b>△ 3,607</b>
営業外収益	269	189	79
営業外費用	311	284	27
<b>経常利益</b>	<b>3,873</b>	<b>7,428</b>	<b>△ 3,555</b>
特別利益	1,219	436	783
特別損失	299	334	△ 35
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>4,793</b>	<b>7,529</b>	<b>△ 2,736</b>
法人税、住民税及び事業税	1,456	3,397	△ 1,940
過年度法人税等	152	-	152
法人税等調整額	651	△ 373	1,024
少数株主利益	72	29	42
<b>当期純利益</b>	<b>2,459</b>	<b>4,475</b>	<b>△ 2,016</b>

◆**売上高**  
大型設備投資の延期、見合わせなどの影響を受け、前期と比べて4,874百万円減少しました。

◆**営業利益・経常利益**  
受注競争の激化による売上高の減少及び採算性の悪化に加え、資材及び労務費の高騰により前期と比べてマイナスとなりました。

◆**当期純利益**  
退職金制度移行に伴う特別利益の計上があったものの、経常利益が減少したことにより、前期と比べて2,016百万円減少しました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位: 百万円)

科目	当期 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	前期 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,483	850
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,048	785
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,867	△ 1,660
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 24	9
現金及び現金同等物の増減額	2,544	△ 14
現金及び現金同等物の期首残高	5,237	5,125
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	127
現金及び現金同等物の期末残高	7,781	5,237

◆**営業活動によるキャッシュ・フロー**  
6,483百万円の資金流入となりました。主な資金の増加は税金等調整前当期純利益、減価償却費、売上債権の減少によるものであり、主な支出は仕入債務の減少、引当金の減少、法人税等の支払によるものです。

◆**投資活動によるキャッシュ・フロー**  
1,048百万円の資金流出となりました。主な支出は有形固定資産の取得によるものであり、主な収入は投資有価証券の売却によるものです。

◆**財務活動によるキャッシュ・フロー**  
2,867百万円の資金流出となりました。主な支出は借入金の返済や配当金の支払によるものです。当期末の現金及び現金同等物は、前期と比べて2,544百万円増加し、7,781百万円となりました。

連結株主資本等変動計算書(要旨)

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位: 百万円)

	株主資本					評価・換算差額等	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
平成19年3月31日残高	8,225	7,509	21,477	△ 145	37,066	566	356	37,989
<b>連結会計年度中の変動額</b>								
剰余金の配当	-	-	△ 807	-	△ 807	-	-	△ 807
当期純利益	-	-	2,459	-	2,459	-	-	2,459
自己株式の取得	-	-	-	△ 148	△ 148	-	-	△ 148
自己株式の処分	-	△ 0	-	3	3	-	-	3
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	-	-	-	-	-	△ 298	75	△ 223
<b>連結会計年度中の変動額合計</b>	<b>-</b>	<b>△ 0</b>	<b>1,651</b>	<b>△ 145</b>	<b>1,506</b>	<b>△ 298</b>	<b>75</b>	<b>1,283</b>
平成20年3月31日残高	8,225	7,508	23,129	△ 290	38,573	267	432	39,272

単体財務情報

■貸借対照表(要旨)

(単位: 百万円)

科目	当期 (平成20年3月31日現在)	前期 (平成19年3月31日現在)	比較増減
<b>資産の部</b>			
流動資産	36,676	47,493	△ 10,816
固定資産	27,213	26,018	1,194
<b>負債の部</b>			
流動負債	26,869	34,098	△ 7,228
固定負債	4,825	7,340	△ 2,514
<b>純資産の部</b>			
株主資本	31,936	31,514	421
評価・換算差額等	258	558	△ 300
<b>総資産</b>	<b>63,889</b>	<b>73,511</b>	<b>△ 9,621</b>

■損益計算書(要旨)

(単位: 百万円)

科目	当期 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	前期 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)	比較増減
売上高	52,106	59,510	△ 7,403
売上原価	41,245	44,539	△ 3,293
売上総利益	10,861	14,971	△ 4,109
販売費及び一般管理費	9,615	9,870	△ 255
<b>営業利益</b>	<b>1,246</b>	<b>5,100</b>	<b>△ 3,853</b>
営業外収支	602	402	200
<b>経常利益</b>	<b>1,848</b>	<b>5,502</b>	<b>△ 3,653</b>
特別収支	669	156	512
<b>税引前当期純利益</b>	<b>2,517</b>	<b>5,658</b>	<b>△ 3,140</b>
法人税等	1,143	2,145	△ 1,002
<b>当期純利益</b>	<b>1,375</b>	<b>3,513</b>	<b>△ 2,138</b>

## 【水処理装置事業】

当事業においては、純水・排水両輪体制による一般産業分野での受注拡大や、メンテナンス・改造提案・水処理アウトソーシング受託などのソリューションビジネスの拡大、コストダウンの推進などに努めてまいりました。しかしながら、電子産業関連を中心に、大型設備投資が減少するとともに投資計画の延期・中止が相次いだ影響で、受注高・売上高は前期と比べて大幅に減少する結果となりました。

## 【薬品事業】

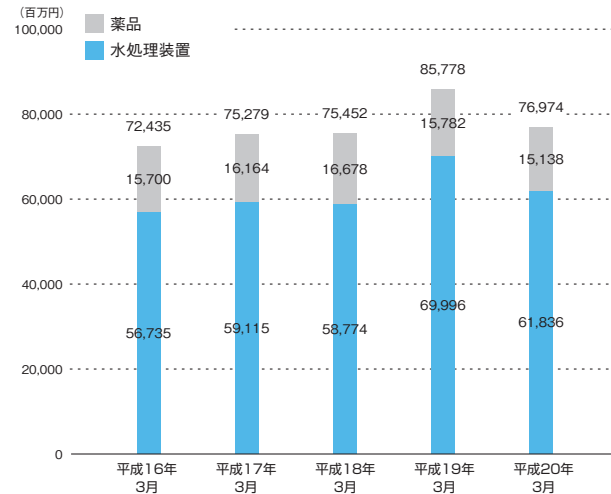
当事業においては、当社が納入した水処理装置の顧客に向けたイオン交換樹脂・水処理薬品の拡販に努めてまいりました。しかしながら、電力向けイオン交換樹脂の販売や、電子産業・一般産業向け水処理薬品の販売が減少したことから、受注高・売上高ともに前期と比べて減少しました。

## ■ セグメント別業績

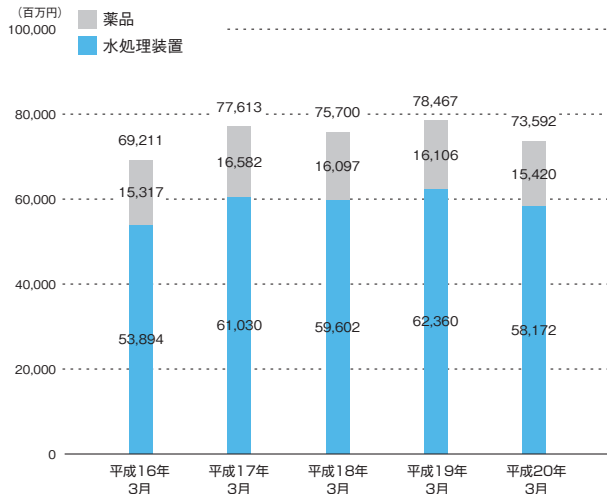
(単位：百万円)

科目	当期 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	前期 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)	比較増減
<b>受注高</b>			
水処理装置事業	61,836	69,996	△ 8,160
薬品事業	15,138	15,782	△ 644
<b>売上高</b>			
水処理装置事業	58,172	62,360	△ 4,188
薬品事業	15,420	16,106	△ 686
<b>営業利益</b>			
水処理装置事業	2,748	5,677	△ 2,929
薬品事業	1,167	1,845	△ 677

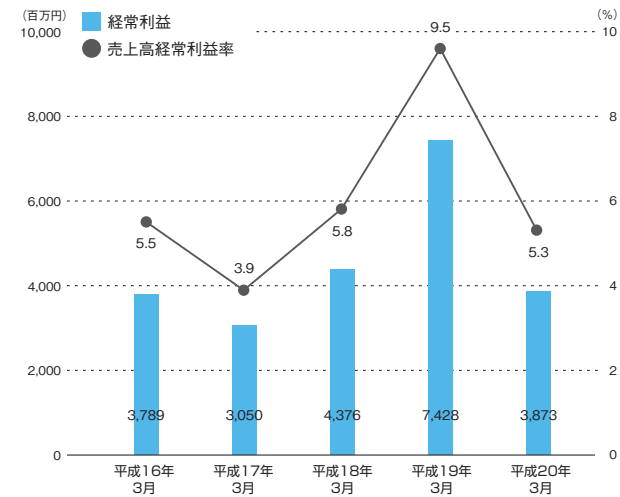
## ■ 受注高



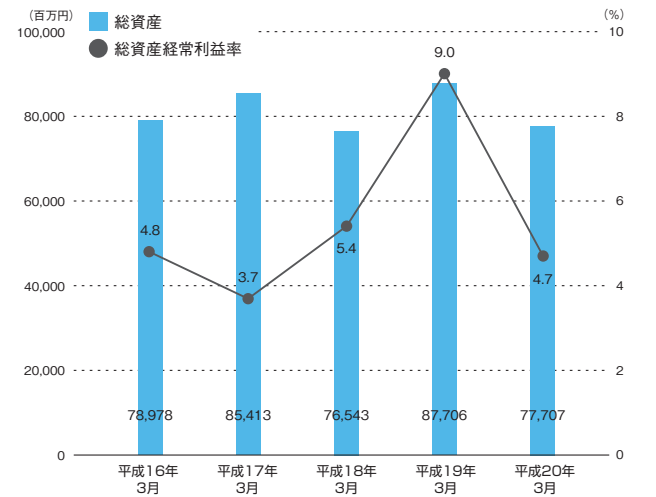
## ■ 売上高



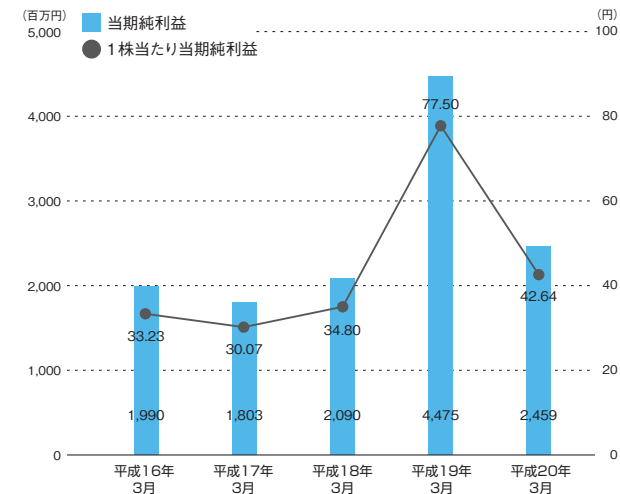
## ■ 経常利益／売上高経常利益率



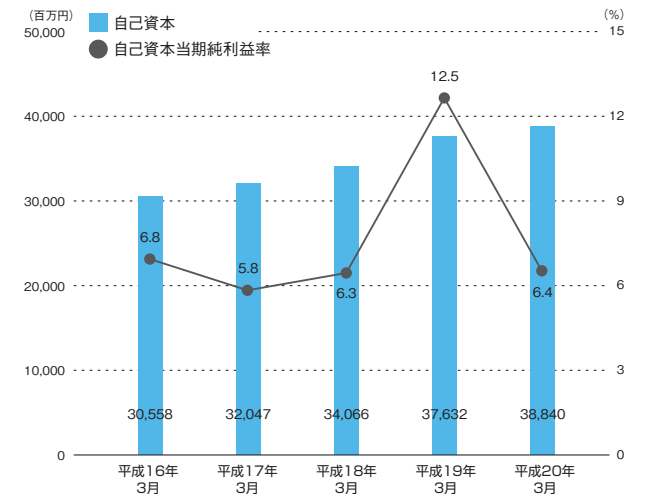
## ■ 総資産／総資産経常利益率(ROA)



## ■ 当期純利益／1株当たり当期純利益



## ■ 自己資本／自己資本当期純利益率(ROE)



会社概要

商号 オルガノ株式会社 (英文 ORGANO CORPORATION)  
 創業 昭和21年5月1日  
 資本金 8,225,499,312円  
 従業員数 651名 (連結 1,635名)  
 主要な事業内容 当社は総合水処理エンジニアリング会社として、イオン交換樹脂、分離膜、活性炭等を使用する各種用排水処理装置の製造、販売、メンテナンス及び水処理アウトソーシング受託並びに各種薬品類の製造、販売を主な事業としております。

主要な事業所

本社 〒136-8631  
 東京都江東区新砂1丁目2番8号  
 開発センター 相模原  
 工場 つくば、いわき、幸手  
 事業所 周南  
 支店 北海道、東北、中部、関西、中国、九州、台湾

主要なグループ会社

■ 連結対象子会社

(国内) オルガノ北海道(株) (海外) Organo (Asia) Sdn.Bhd.  
 オルガノ東北(株) オルガノ(蘇州)水処理有限公司  
 オルガノ東京(株) オルガノ(上海)水処理有限公司  
 オルガノ中部(株) オルガノ(香港)水処理有限公司  
 オルガノ関西(株) オルガノ(タイ)水処理有限公司  
 オルガノ九州(株) オルガノ(シンガポール)水処理有限公司  
 オルガノプラントサービス(株)  
 オルガノダニスコフードテクノ(株)  
 オルガノアクティ(株)

取締役・監査役・執行役員 (平成20年6月27日現在)

取締役会長	傳田 正彦
取締役社長兼CEO	橋本 喜代志
取締役	田代 圓
取締役兼常務執行役員	近藤 昭夫
取締役兼常務執行役員	田中 康彦
取締役兼常務執行役員	鬼頭 和夫
取締役兼常務執行役員	飯塚 廣
取締役兼執行役員	中村 聖和
常勤監査役	太期 敏之
常勤監査役	小柴 勲
監査役	川村 克彦
監査役	吉田 正俊
執行役員	飯泉 俊一
執行役員	小暮 茂
執行役員	毛利 隆
執行役員	峯下 幹雄
執行役員	浦井 紀久
執行役員	渡辺 大輔
執行役員	伊藤 智章

(注1) 傳田正彦及び橋本喜代志の両氏は代表取締役であります。  
 (注2) 川村克彦及び吉田正俊の両氏は社外監査役であります。

■ その他グループ会社

(国内) オルガノ山下薬品(株) (海外) Organo (Singapore) Pte Ltd  
 オルガノ・ハイテック(有) Organo (Thailand) Co.,Ltd.  
 環境テクノ(株)  
 東北電機鉄工(株)

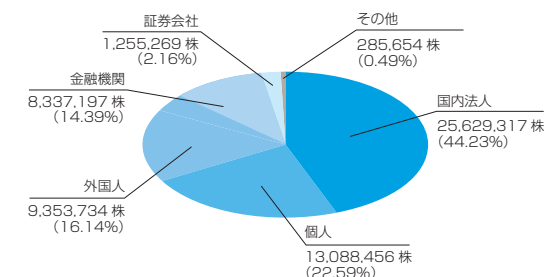
株式の状況

● 発行可能株式総数 ..... 126,960,000 株  
 ● 発行済株式総数 ..... 57,949,627 株  
 ● 株主総数 ..... 7,849 名

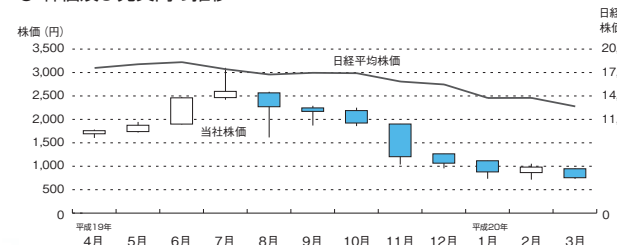
● 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
東ソー株式会社	23,877	41.20
ピクテ アンド シー ヨーロッパ エスエー	2,708	4.67
株式会社みずほ銀行	1,773	3.06
ザバンク オブ ニューヨーク・ジャスディック トリーティー アカウト	1,530	2.64
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニー レギュラー アカウト	867	1.49
みずほ信託銀行株式会社	775	1.33
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	728	1.25
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	634	1.09
日本生命保険相互会社	564	0.97
明治安田生命保険相互会社	549	0.94

● 所有者別株式分布状況



● 株価及び売買高の推移



株式メロ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
 定時株主総会 6月  
 基準日 定時株主総会の議決権 3月31日  
 期末配当 3月31日  
 中間配当 9月30日  
 単元株式数 1,000株  
 株券に関する手数料 株式名義書換 無料  
 新券交付 株券1枚につき210円 (消費税額等を含む)  
 公告掲載方法 電子公告  
 公告掲載アドレス <http://www.organo.co.jp/>  
 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。  
 株主名簿管理人 〒105-8574  
 東京都港区芝三丁目33番1号  
 中央三井信託銀行株式会社  
 同 事務取扱所 〒168-0063  
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
 電話0120-78-2031 (フリーダイヤル)  
 同 取次所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店  
 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店  
 上場証券取引所 東京証券取引所 (市場第一部)

株式に関するお手続き用紙のご請求方法

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、下記株主名簿管理人中央三井信託銀行のフリーダイヤル又はホームページをご利用ください。  
 ◆フリーダイヤル 0120-87-2031 (24時間受付：自動音声案内)  
 ◆ホームページアドレス [http://www.chuomitsui.co.jp/person/p\\_06.html](http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html)  
 なお、単元未満株式買取請求に必要な用紙につきましては、株主名簿管理人のホームページ又は窓口にて承ります。  
 ※証券保管振替制度をご利用の場合は、お取引のある証券会社にお申し出ください。